

10. 創生学部

(1) 創生学部の教育目的と特徴	10-2
(2) 「教育の水準」の分析	10-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	10-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	10-13
【参考】データ分析集 指標一覧	10-14

(1) 創生学部の教育目的と特徴

1. 創生学部の教育目的

創生学部は、新潟大学の既存学部の学問体系（ディシプリン）に依拠した「到達目標達成型」学位プログラム（主専攻プログラム）の豊富な教育資源（授業科目とその体系性）を活用して、学生が自らのキャリア形成をイメージし、オーナーシップを持って学修する「到達目標創生型」学位プログラムである。

創生学部では、学生は定められた一つの学問分野を軸に学んでいく従来の学部とは異なり、学生一人ひとりが自分で目標を設定し、課題発見・課題解決能力（リテラシー）育成を中核としたカリキュラムのなかで、専門領域を選んで学んでいく。具体的には、学生の主体性と学修への自己意識化をサポートする授業科目や課題解決型学修中心の授業科目による「リテラシー学修」を中心に据え、学問の専門領域の学修（「領域学修」）を組み込みながら、4年間の学士課程の学修を通して、自己の人材価値を能動的に高めていくことができる人材を育成するための教育課程を編成している点に特徴がある。そのため、学生主体の学修を確立することを主眼に、コミュニケーション能力や協働してプロジェクトを実践できるように、初年次から卒業時までゼミやラボ活動を設定している。また、リテラシー育成を中核にししながら、専門領域（ディシプリン）は、人文・法・経済・理・工・農の6学部から、22の分野が提供され、学生はそれらの中から自分の関心等にあわせて1つの領域学修を学修する形態をとることで、学生自らの関心に沿った専門分野の学修の実現を図っている。

2. 創生学部の特徴

創生学部の教育の特徴を箇条書き的に表すと、以下の3点にまとめることができる。

* 特色1：課題発見・課題解決能力の育成を意識したカリキュラム

科学技術・文化・環境・福祉など、さまざまな分野の課題を把握し、解決する力を育てる授業科目群を、初年次から卒業まで一貫して提供する。グループ主体のゼミ／ラボ活動を通して、コミュニケーション能力と、協働してプロジェクトを実行する力を育成する。

* 特色2：22の領域パッケージから自分にあった専門分野を選択

学生一人ひとりの関心に合わせて、人文・法・経済・理・工・農の各学部が提供する専門授業科目群（領域学修科目パッケージ）をそれぞれに選択させている。他分野の学生たちと交流を通じて、ものごとを多角的にとらえる力を養成する。

* 特色3：少人数教育と幅広い分野の教員による手厚いサポート

初年次から卒業までの4年間を通じた少人数指導体制により、教員がきめ細やかに学生一人ひとりのテーマの設定、選択、履修を支援している。異学年の学生どうしの交流を促進するよう、「学年縦横型ゼミ」の編成を行う。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 3410-i1-1～2）
- ※ 2019年度に全学部・研究科において、3ポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の見直しを行った。

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 3410-i2-1, 前掲別添資料 3410-i1-2）
- ※ 2019年度に全学部・研究科において、3ポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の見直しを行った。

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料
（別添資料 3410-i3-1～3）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
（別添資料 3410-i3-4～6）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 創生学部では、以下に挙げる1～5の授業科目（区分）を体系的に配置することによって、学生が主体的選択によって学修をデザインできるようにカリキュラムを編成する（資料1）。このカリキュラムに沿って学部規程に定められた授業科目を履修し、126単位を取得すると卒業となり、学士（学術）の学位を授与する構成である。

新潟大学創生学部 教育活動の状況

1. 導入・転換教育科目

学修する目的の確認と学外学修などを活用した意識転換を行い、主体的に学修する態度・姿勢を養う。いずれも1年次に履修する必修科目である。

- *創生学修入門
- *フィールドスタディーズ (学外学修)
- *リフレクションデザイン
- *基礎ゼミ I～II

2. 基礎科目

リテラシーコア・課題解決実践科目や領域学修科目を学ぶ上で必要となる基礎を身につけるための科目。

- *英語
- *初修外国語
- *情報処理・データ分析
- *データサイエンス基礎

3. リテラシーコア・課題解決実践科目

課題把握、分析解決能力などの汎用的能力涵養のための科目と、自分の強みを伸長させるインテンシブな英語学習、数的感覚を養成する科目、プロジェクト参加型学修などで課題解決を実践的に行う科目が含まれる。なお、「データサイエンス実践A～C」「実践的英語科目 (P.A.C.E.)」は、いずれか一方を選択して履修する。

- *データサイエンス実践A～C
- *実践的英語科目 (P.A.C.E.)
- *リテラシー応用A～E
- *基礎ゼミ III～IV
- *プロジェクトゼミ I～II
- *ソリューションラボ I～II

4. 領域学修科目

専門領域を学ぶために各学部 (主専攻プログラム) から提供される科目。人文学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、農学部から総計22の領域学修科目パッケージが整備されている。

5. 学修成果総括科目

4年間の学修を総括的に評価し、エビデンス (学修成果) をもって学位審査へ向かう準備を行う科目。

- *リフレクションデザイン III
- *リフレクションデザイン IV

[3.1]

資料1 創生学部の学修課程



- 2018年度に全学で定めた「学位プログラム評価指針を策定するためのガイドライン」に従い、2018年度より各主専攻プログラムにおいて「学位プログラム評価指針」の作成を開始し、教育戦略統括室による確認・修正等を経て2019年度に完成させ（前掲別添資料3410-i3-4～6）、2020～21年度にこれに基づく自己点検・評価を実施する予定である。「学位プログラム評価指針」における評価項目の一つに、「カリキュラムの適切さ」があり、カリキュラムマップやカリキュラムツリー、分野水準表示を用いて科目構成や科目配置の適切を点検・評価することとしている。[3.0]

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料3410-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
(別添資料3410-i4-2～3)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料3410-i4-4)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
(別添資料3410-i4-5)
- ・ 指標番号5、9～10（データ分析集）

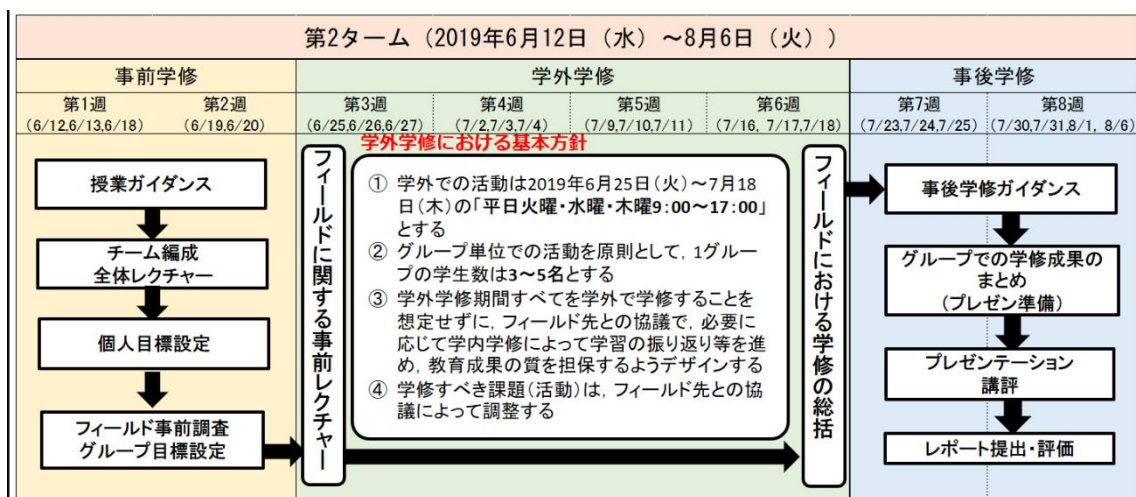
【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 創生学部のフィールドスタディーズ（学外学修）は、一般的なインターンシップと異なり、1年次に長期にわたって行う。2週間の事前準備、4週間の派遣、2週間の事後学習というスケジュールで行い、学生に長い期間の取り組みを必修と課している（資料2、別添資料3410-i4-6）。

この科目は、初年次の転換教育科目として、学外実習によって学修意識の転換と学修の動機づけを高めることをねらったものである。この科目を通じて、社会的な課題の現状理解や課題分析につながるものの見方について見識を深め、2年次以降に履修する授業科目やカリキュラム（領域学修等）への関心の焦点化にもつなげる。それぞれの受講生は、4週間程度、民間企業、地方自治体等の学外機関で学修の機会が与えられる。期間終了後には、受け入れ機関の担当者を招いて座談会を開いている（2018年度、2019年度）。報告書及び学外機関との意見交換では、受け入れ先から「困難な課題に粘り強く取り組み、私たちの想像以上の成果をあげた」「最終プレゼンテーションにおいては、課題解決のための具体的な分析結果と自由な発想による企画立案が反映されていた」等の高い評価を受けた。

これら精力的活動と丹念な協力体制更新の結果、本授業の取り組みは、2019年度の文部科学省の「大学等におけるインターンシップ表彰」で最高の評価を受け、「最優秀賞」を受賞した（別添資料3410-i4-7）。[4.1]

資料2 学外学修スケジュール



<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 3410-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 3410-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 3410-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 3410-i5-4～5）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 創生学部では、学生一人ひとりが自分で目標を設定し、課題や専門領域を選んで学んでいく。ただし、他の学部に比べて自由度が高い分、計画的に学修を進めて行くことが求められる。そのため、まず、入学時ガイダンスをさらに丁寧に説明するために、創生学修入門を開講して、本学部の学修プロセスの理解を深める。また、4年間通して担任（指導教員）を設定し、適宜指導や助言を行う体制を整えている。1年次から2年次までの2年間は、基礎ゼミⅠ（1年次第1，2タームに履修）のゼミ担当教員が担任（指導教員）となり、助言などを行う。3年次ではプロジェクトゼミの担当教員が、4年次ではソリューションラボの担当教員が、それぞれ同様に担任（指導教員）となる。なお、領域学修科目パッケージの履修等については、領域学修主担当教員も適宜助言等を行う。学生の履修状況については、定期的にアンケートを実施し（別添資料 3410-i5-6）、また、単位の取得状況についても、整理と分析を行い、面談時の助言に活用している。[5.1]

○ 新しい教育システムを円滑に実施するために、履修段階に対応したNBAS（新潟大学学士力アセスメントシステム）での共通的な振り返り項目の設定をしてい

る。学生の主体的学習を促すために、学生自身がNBASを活用して各自のカリキュラムツリーによる履修計画の立案を行い、担任及び領域学修担当教員が履修科目の確認も含め、必要なアドバイスを行っている。またNBASで記述される学期ごとの学生の学習目標の設定、達成状況をセメスターアセスメント（学期ごとの面談）で確認し、学修指導に役立っている。[5.2]

- 創生学部では、特色ある社会人と学生との交流、相談体制を設けるため、教育サポーターズという制度を運用している（別添資料 3410-i5-7）。学生への講演と、双方向の対話を通じて、社会人になるための自覚を促し、学修への意欲を高めている（資料3）。[5.3]

資料3 教育サポーターズ活動記録

タイトル	時間	内容
学外学修事前学修一講演	2017年6月13日 14:40～16:00	サポーターズ講師1人による講演
公開フォーラム「未来を共創するために」	2017年11月30日 13:30～17:00	サポーターズ講師2人による講演、パネルディスカッション
公開講座「社会課題としてのエネルギー需要・供給：中心的役割を担うのは誰か？」	2018年4月20日 14:00～17:00	サポーターズ講師2人による講演
創生学修入門一講演	2018年5月19日 13:00～14:00	サポーターズ講師1人による講演
創生学部公開講演会「大学を活かして未来の仕事につなげようー今だからできるゼロからのスタートアップ」	2018年11月28日 14:00～17:00	サポーターズ講師2人（+1人）による講演
創生学修入門一講演	2019年5月18日 13:00～14:00	サポーターズ講師1人による講演
オープンキャンパスパネルディスカッション	2019年8月9日 10:30～11:30, 14:00～15:00	サポーターズ講師参加のパネルディスカッション

- 2017年設立の本学部では、2021年の春まで卒業生がいないため、現在では、学部OBなどの就職支援活動が得られない。その代わりとして、学生支援担当の学務委員が中心となって、学生が就職活動に入る前から、卒業後の進路を見据えた意識づけを行っている。進路ガイダンスや企業（業界）説明会・研究会を行って、将来を意識した学修活動に専心出来る体制を整えている（別添資料 3410-i5-8～9）。[5.3]
- 本学部では、創生学生キャリア研究会（学生組織）、キャリア創生研究会（教員組織）が協力して、学生のキャリア選択を、支援する取り組みを行っている。そこでは、学生自らが、反転授業（学生が自ら講義に参画することで、より深い学びを得る授業方法）ならぬ「反転進路ガイダンス」を自主的に企画・運営して、外部講師からのアドバイスを積極的に引き出すような進路ガイダンスを運営している。実施にあたった学生からの反響は大きく、協力者、参加者は増加傾向にある（別添資料 3410-i5-10～12）。[5.3]

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 3410-i6-1）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 3410-i6-2）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 3410-i6-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 1年次に必修科目としている基礎ゼミⅠ（導入・転換教育科目）では、「活動への取り組み」，「中間発表会」，「最終発表会」の3つの項目に分かれたルーブリックを用いて評価している（別添資料 3410-i6-4）。同様に，基礎ゼミⅡ（導入・転換教育科目）では，「学修への取り組み」，「レポート」の2つの項目に分かれたルーブリックを用いて評価を行っている（別添資料 3410-i6-5）。さらに，2020年度に実施する最終学年のソリューションラボⅠ，Ⅱにおいても，ルーブリックを策定し，共通的な指標のもとに成績評価を行う（別添資料 3410-i6-6）。[6.1]
- 本学部の特徴である学外学修（フィールドスタディーズ）の評価方法については「フィールドスタディーズの評価ガイドライン」を定め（別添資料 3410-i6-7），① リアクションペーパー（10点），② 学内最終プレゼンテーション:教員からの総合評価の平均点（最高20点），③ 最終レポート:ルーブリックを基に4段階で評価（20点），④ 学修管理シート（15点），⑤ 取組への態度姿勢（10点），⑥ 活動週報（グループ単位）（15点）により評価している。[6.1]

<必須記載項目7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 3410-i7-1～2）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（前掲別添資料 3410-i7-2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部の特色として，学修成果総括科目（リフレクションデザインⅢ～Ⅳ，それぞれ1単位科目）を創設し，4年間の学修を振り返りプロセスを必修として課している（資料4）。通常の学部（124単位）よりも2単位多い126単位を卒業要件とする。リフレクションデザインⅢは，各自が選んだ専門科目である領域学修科目の総括を行い，リフレクションデザインⅣは，4年間の学修の全てを振り返る総括科目である（資料5，別添資料 3410-i7-3～4）。[7.1]

資料4 卒業要件の概略

(1) 本学部に通算4年以上在学すること。	
(2) 次の科目区分ごとに、()内以上の単位を修得すること。	
導入・転換教育科目	(17)
基礎科目	(10)
リテラシーコア・課題解決実践科目	(28)
学修成果総括科目	(2)
領域学修科目	(46)
自由科目	(23)
*合計	(126)

資料5 リフレクションデザインⅢ、Ⅳの概要

<p>リフレクションデザインⅢ</p> <p>2年次以後に進めてきた領域学修について、学修の成果を確認し、受講学生の専門領域の能力を確認する科目である。受講学生のこれまでの学修成果に関連する社会課題、および当該課題への学問的アプローチに関し、自分の領域学修との関係をレポートにまとめ、発表することによって、単に領域学修での単位の積み上げではなく、実際に領域学修で身につけた能力が課題発見・解決においていかに有効に活用できるかを判断・評価する。</p>
<p>リフレクションデザインⅣ</p> <p>4年次の学修総括科目として、学士課程全体の学修の振り返りと学修の総括的評価を行う科目である。リフレクションデザインⅠ～Ⅲでの学修の振り返りに関するスキルを活用して、4年間の学修記録の蓄積をベースに、学修成果報告書を作成する。報告書作成の際には、4年間の学修成果を学生の視点で振り返り、担任教員からの助言を受ける。学修成果報告書は学位認定のためのエビデンスとなる。</p>

<必須記載項目8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料
(別添資料 3410-i8-1, 前掲別添資料 3410-i1-2)
- ※ 2019年度に全学部・研究科において、3ポリシー(ディプロマ・ポリシー, カリキュラム・ポリシー, アドミッション・ポリシー)の見直しを行った。
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率(文部科学省公表)
- ・ 入学定員充足率(別添資料 3410-i8-2)
- ・ 指標番号1～3、6～7(データ分析集)

新潟大学創生学部 教育活動の状況

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 創生学部では、新しい学部の教育理念、教育法、効果が広く認知されることを期して、高等学校を中心に積極的に、模擬講義や学部説明に赴き、また、オープンキャンパスの開催はもとより、依頼のあった高校の見学イベントを積極的に受け容れて、本学部の教育方針についての理解を深めてもらう活動を継続している（資料6）。出前講義の実績依頼数が着実に増加していることから、本学部の認知度が高まっていることが期待される。[8.1]

資料6 創生学部主催の活動の実績

	出前講義	大学見学	高大連携事業	訪問高校数
2017年度	17	13	6	97
2018年度	25	7	5	52
2019年度	35	12	14	71

- 現在、高等教育の方針が大きく見直されており、2018年公表の学習指導要領においても、探求型学修の推進が強く謳われている。探求型教育を推進する本学部においては、高等教育における探求型教育のあり方について、高等学校の教員達を交えて、情報交換の場が必要であると考え、「課題探究型学修に関する高大接続情報交換会」を設立した。情報交換会の立ち上げ会（2018年度オープンキャンパスの翌日に開催）には、新潟県内高校22校、県外27校の参加があり、探求型学修への関心の高さを伺わせた（別添資料3410-i8-3）。[8.0]
- 本学部では、2021年度入試より、総合型選抜の入学試験（AO入試）を始める。この入試制度の実施については、適切な学力担保と精度の高い選抜を行うため、試行試験を高校の教員向けに公開して実施した。試行試験では、創生学部在学生在が模擬受験者となり、講義の聴講と課題レポートの解答を行った。来場した高校教員から意見を伺って、より実効性の高い入試制度にするための修整を行った（別添資料3410-i8-4）。[8.0]

<選択記載項目A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料3410-iA-1)
- ・ 指標番号3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 「P. A. C. E. (Program for Academic and Communicative English)」は、特に海外での活躍を希望する学生を対象に、少人数授業による実践的な英語スキルの獲得を目指して開設している。1年次の「基礎英語」、 「アカデミック英語」に続き、2年次に、ネイティブ教員による実用英語のPACEプログラムか、あるいは、

データサイエンスプログラムのいずれかを選択する必修科目6 (Academic Reading I・II, Academic Writing I・II, Academic Listening & Speaking, Oral Communication), 選択必修科目3 (Research Writing, Academic Communication Skills, Presentation skills) (受講者数は, 20人 (2018年度), 22人 (2019年度))。創生学部から中長期に留学する学生や海外インターンシップに参加した大半は, 現地大学での授業の受講や学習活動にP.A.C.Eで学んだ英語力や実践的スキルを活かしている。

- 他大学で取得した単位の履修について, 創生学部では, 留学の推進を前提にした海外の大学での単位の読み替えを積極的に進めていくため, 他大学で取得した単位の読み替えのための申し合わせを作成している (別添資料 3410-iA-2)。[A. 0]

<選択記載項目B 地域連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 先述の通り, 創生学部では1年次必修科目 (第2ターム) に「フィールドスタディーズ (学外学修)」を配置している (前掲別添資料 3410-i4-6)。これは, 授業の特色でもあるが, 同時に地域連携活動としても, 不可欠な意味づけを持っている。

地域や産業界など様々なフィールドでの体験的学修を通じて日常の生活に密接に関連する産業・地域構造の理解を図り, 学生の学修目的や課題意識の発見と大学4年間の学修デザインへの気づきを深めることのできる態度・姿勢を育成している。担当者との率直な意見交換が, 学生, 受け入れ機関, 地域全体のそれぞれにとって, よりよい方向に向かうことに繋がっていくと期待される。豊富な実務経験を有する様々な社会人との関わりながら学修する「地域連携による教育活動」であると云えるだろう。[B. 1]

<選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学の教育の質保証を目的に, 学位プログラムの「人材育成目標の適切さ」「カリキュラムの適切さ」「学修成果の評価と達成状況」「学位プログラムの継続的な改善状況」を基準として点検すべき事項を定め, 資料・情報を収集して現状を把握するとともに, 課題を検討して必要があればその改善策を立てて取り組む

新潟大学創生学部 教育活動の状況

「学位プログラム評価」を、全学的に実施することとなった（前掲別添資料 3410-i3-4）。2018 年度に全学で定めた「学位プログラム評価指針を策定するためのガイドライン」に従い（前掲別添資料 3410-i3-5），2018 年度より各主専攻プログラムにおいて，3 ポリシー（ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー，アドミッション・ポリシー）の見直し及び「学位プログラム評価指針」の作成を開始し，教育戦略統括室による確認・修正等を経て 2019 年度に完成させ（前掲別添資料 3410-i1-2，前掲別添資料 3410-i3-6），2020～2021 年度にこれに基づく自己点検・評価を実施する予定である。[C.2]

<選択記載項目 D 学際的教育の推進>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 創生学部では分野を超えて教員が連携して授業科目「リテラシー応用 A～E」を開講している。リテラシー応用 A～E では，受講生が可能な限り広い視野が開けるように，教員の専門領域に立脚しながら，連携して多様性を確保する形でのテーマ設定を行っており，社会課題や実社会との関連について双方向型（PBL 等）の講義を展開している。また，創生学部教育サポーターズを組織し（2019 年度では，総計 12 人），大学教員だけではなく，分野を問わず広く社会で活躍中の方々を教育サポーターとして任用し，人材育成面において広範囲かつ学際的に関わってもらう体制を整備している（前掲別添資料 3410-i5-7）。[D.1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率
(別添資料なし) 理由：2019年度末時点で卒業生がいないため
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率
(別添資料なし) 理由：2019年度末時点で卒業生がいないため
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(2019年度末時点で卒業生がいないため、特になし)

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(2019年度末時点で卒業生がいないため、特になし)

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※ 部分の指標（指標11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。